

## 国際ワークショップ「ヨーロッパ言語地図の中のスラヴ諸語：地域・類型論の諸問題」の開催

2013年8月11日～12日に、上記のワークショップが北海道大学スラブ研究センターで開催されました。本ワークショップの目的は、主に20世紀末から21世紀にかけて、ヨーロッパを言語圏と見る立場であるマーティン・ハスペルマス氏、ヨハン・ヴァン・デル・アウヴェラ氏らによって展開された、いわゆる「標準的平均的ヨーロッパ語 (SAE=Standard Average European)」研究を批判的に再検討することでした。

ワークショップの主眼は、従来の研究では特に十分に扱われているとは言えないスラヴ諸語を題材に、地域言語学、言語類型論、社会言語学、歴史言語学といった多角的な視点から論じなおすことに置かれていました。参加者は欧米を中心とする6か国から10人で、比較的小規模のイベントでしたが、その多くはスラヴ語学を専門とする当該分野の世界トップクラスの研究者でした。日本ロシア文学会からは、三谷恵子先生(東京大学)および野町素己(北海道大学)が研究報告を行いました。ワークショップの詳しいプログラムは次のリンクをご参照ください。

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/seminors/src/2013.html#8>

本ワークショップは、各報告の時間は35～40分、討論の時間も20分と長めに設定されたこともあり、多彩な内容の報告後の議論も実に白熱したものになりました。

本ワークショップの成果は、組織者の野町およびアンドリイ・ダニレンコ氏(ペース大学)による共同編集で、論文集として西欧の有力な出版社から刊行する準備が進められています。

本ワークショップの組織にあたり、日本ロシア文学会および同北海道支部から有形無形の支援を受けました。また、ワークショップの準備にあたり、特に中村唯史先生(山形大学)からは多くのご指導を頂戴しました。この場をお借りして、皆様にお礼申し上げます。

野町素己(北海道大学)

